特42
456

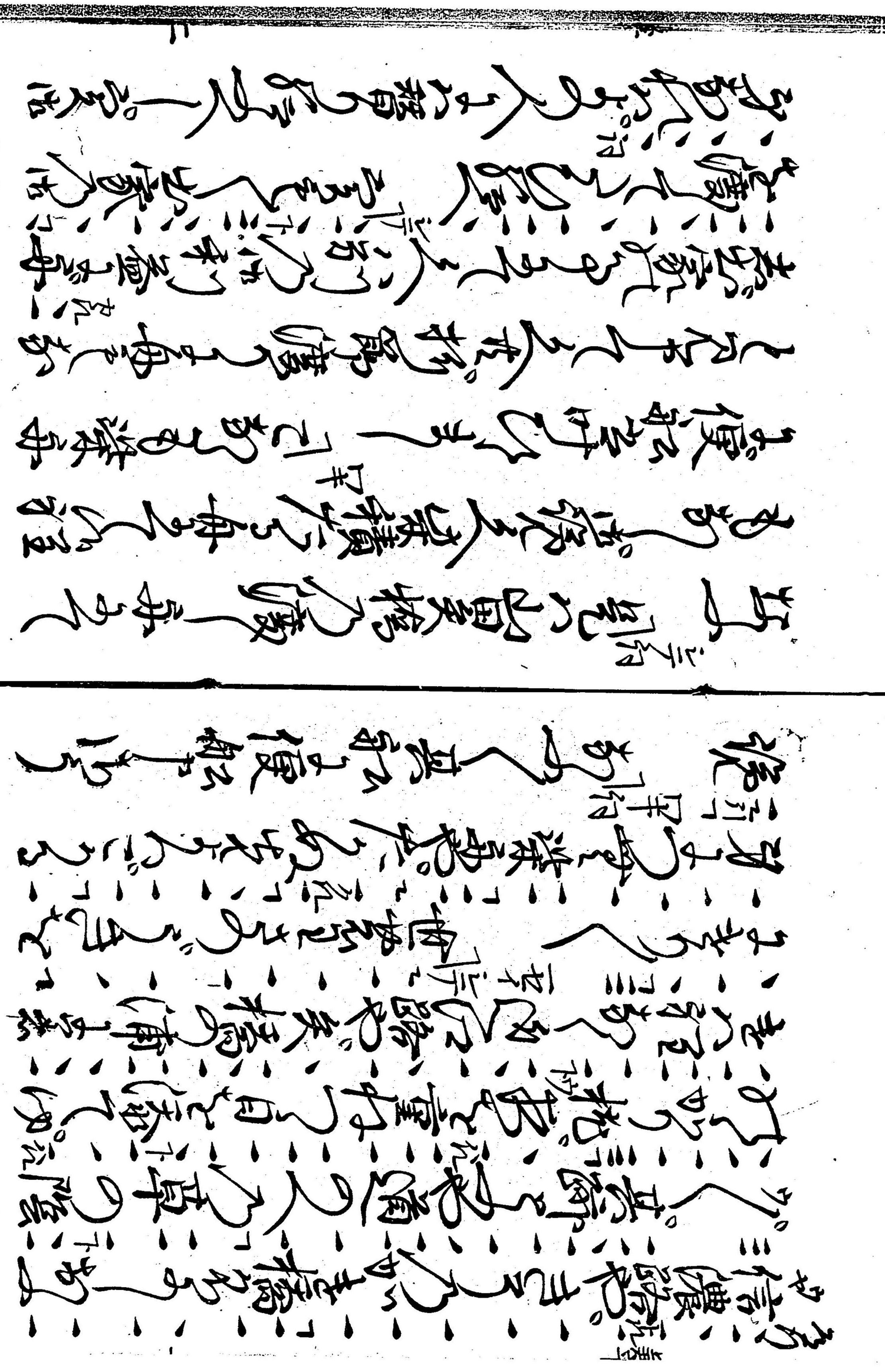
訂正 觀世流謠曲百拾番

蕉平

29

第二十一　慈円

思ふ様を信濃路やくず葉乃
末覚寺　日吉社末寺の山家
にはりかける僧みて作。拾遺末覚殿へ
法門ものこうの原ふかく異形ひたる由
野辺の草よ袖に結ぶ跡を弔ひてさうやと
打ひ入て葉隠の原へと慈円



經の文字如渡得船　舟御覧ずる様にて
のくれかゝれみも近江の海の
矢橋を渡る舟あらばそれは様への浦か
舟也　是はまた浮世をわたる渡舟
のうく手きれぬ袖をしほりき掉ればお
まぬ人なれとはのへ見てまつあきを
舩をはいりて情もなくきとくめされ

くく　如何に船頭殿よ少しへきるみれ
みし渡りする浦山ハ皆名所にてそろ
候らはゞ教へ　さらば皆名所にては
お尋ね教へし　先向ひに當て
大山のみそれは比叡山か　ちんあ
きみは比叡山にてくへ麓に山王二十一社
おきりたる峯は八王子戸津坂本

乃人家迄ゐ(ゐ)ゐくみてゝ　ロキ　梅ゐの乃
比叡山ゐ迄ゐ城ゐゐゐゐゐゐゐゐに當りてゝ
よゐゐ　中(シテ)くゐの事ゐ我山ゐ迄城
乃鬼門を守り悪魔を払ゐゐゐゐ
一仏乗乃峯と申ゐ代々の鷲の大山を
ゐゐとゐゐゐ天台山と号ゐゐ震旦の
四明の洞をうつ(行)して傳教大師植ゑ

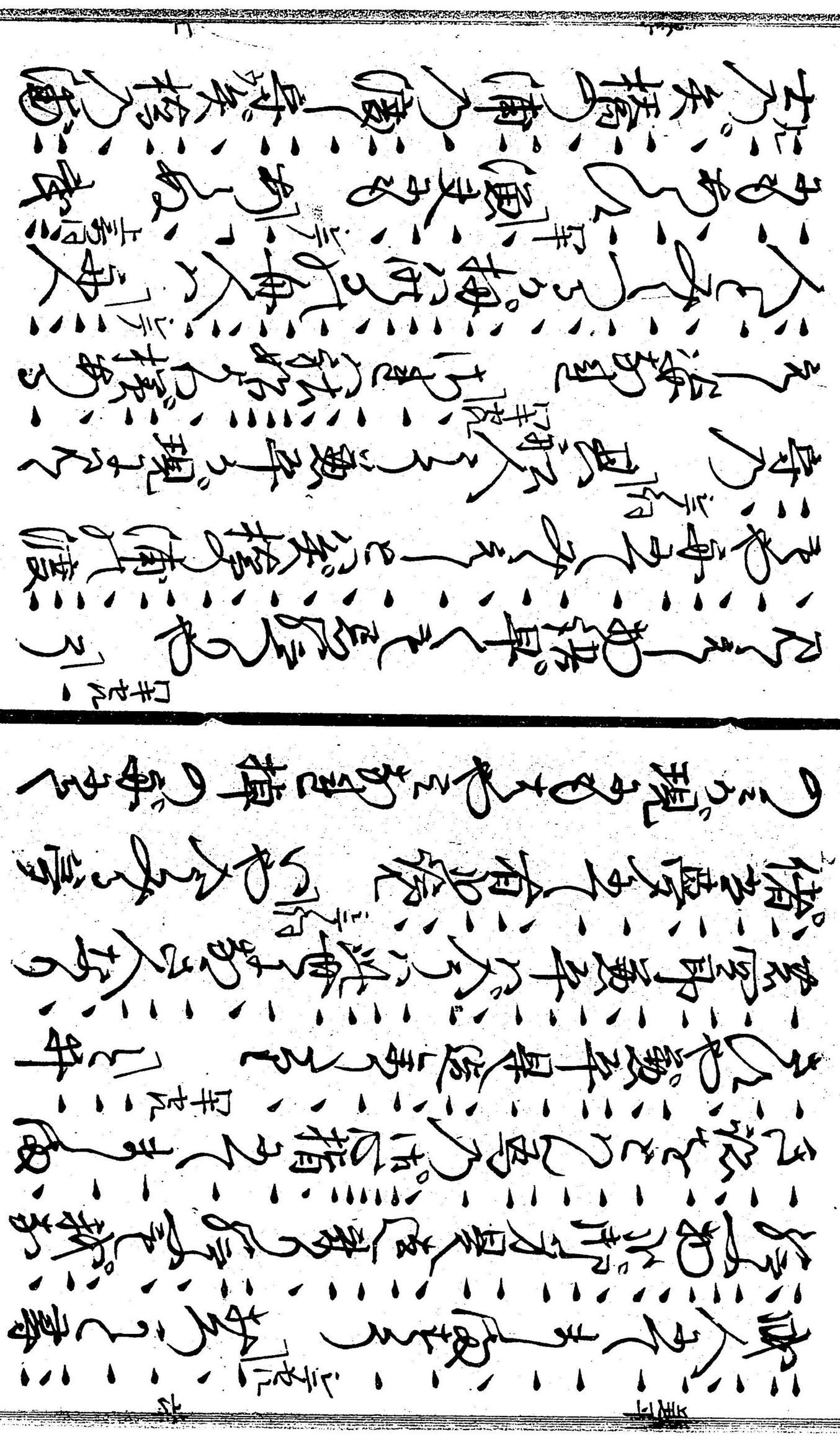
天王と崇ゐゐゐゐゐゐゐゐ迄暦年
中乃ゐゐゐゐ釣我ゐゐ杉と詠ゐ
し根(トニ)本中堂乃山上迄ゐゐゐゐ
て作(早付)　拙く大宮乃所在可ゐゐ
とゐんもゐゐ乃坂本ゐゐゐゐて作ゐ
ゐ(シテ)ゐ蔵ゐ當ゐてゐゐゐゐ陰
ゐみゐゐゐ社大宮の所在可ゐ殿

そて出入久 早 [illegible]経や一切衆生悉有
仏性如来とや問へ 我かみをも頼も
志う拡へ 作りてこと〳〵く佛衆生通
もるみあれいを備も我を隔あり
一仏衆 早 峯よりきたやあり梢を
あり人 [illegible]は止観雲海をたゝへ
早 亦戒定恵の三学をこを 三塔と

あつけ 早 人 [illegible] 一会三ふの機
を顕して三千人の衆徒をさき圓
融の法も墨あさ月の横川をみて
ゆりや拝又麓いちの波や志賀辛崎
乃一松七社の神 興の寺の清水へ
しぶち浪をあれ棹こかまゆ行
遠りし向ひの浪雲霧津の

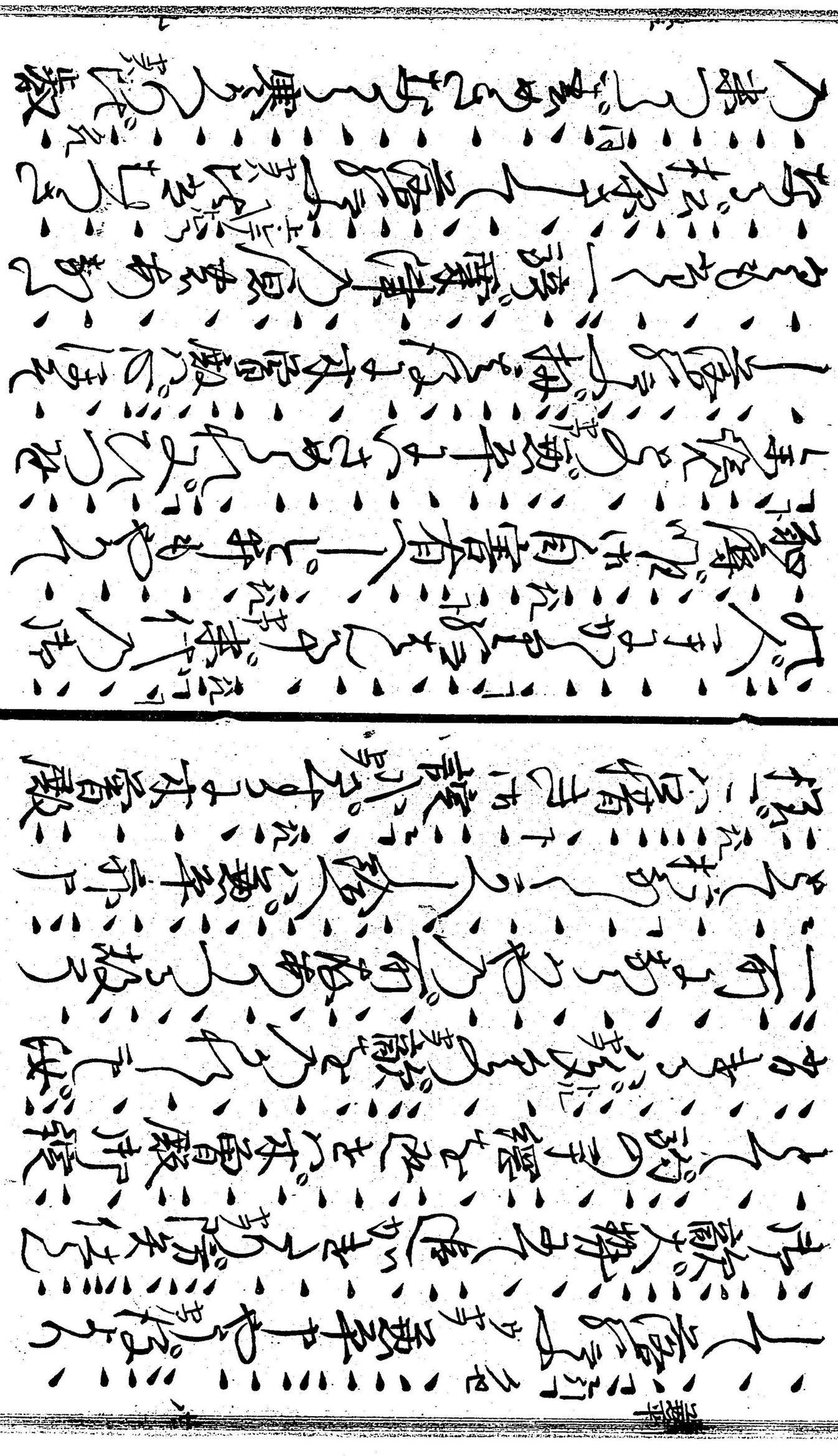
森さちく成て弘法をきけば彼の首
おろされ山桜いと青葉まさりて面影を夏
山ろうりゆやぶ書面の柴垣のたゝく
も眠う惜きけりあるべうよきよく
嬉きつゝ葉津はよ早くゑんよりく
露を月数草遊ぶ日も暮長り
もゆゝうゝ葉津乃原素気世のおき

陰いさや吊ゝ白双ほゝ
を砕を巻ゝ眼睛をやゝ紅波たて
を流しようゝ能よ弟花をしを
雲水乃葉津の原乃卵風よ ときつ
ゝりそよ聲ゝ修羅乃ち風たゝ
ざわゝや ゝよゝやお葉津の原乃
草枕よ甲書を学しみゝ



七渡し守とぞ、我ら同数
を乗せぬ法の舟よりうつて我をま
た彼岸よりつて乗せ給へや
宮や有為はまぼろしちまの数つて去り
やし若木つく前及不同愛幻泡
歌行きあり 是揺花一日の栄
ぞ馬乃家よりを月のぞつよ弱る

兵乃七騎と呼ばく本曾殿を洗河
路よりトアラシ 義平勢田よりまうあ
ひて、三百人騎 そのち合
戦をひくみて主従二騎よりあ
きらめ力あり。ひの松原よりあゆきて
御腹召れと。義平すめりを心
わうそもを後二騎。業乃松原



兼平

の山風の雲ゆく末もくれかゝりおや
しや通路のまよふ空のうす氷深田
に馬をかきおとしひきあけんとしたまふて
ともやらぬ夕月の影のりぬるを見て
はうそて行とあらん身の果ぎん方も
あくあきれたらく此まゝ自害をせんや
とて刀に手を掛給ひしかるにても

兼平が行くへゆかしくて味方の跡を見ん
うしろを給へはいつより来りけん今
井の命はつきる弓の矢をとつてうち甲
みかつきとふつるつ手まてましませは
たまりもあへつ馬よりとうところひ乃
おとある所は家ぞ我よりもし主君の
先師をとへ弟ひてきるひ給へ 宍痛

つきあ[illegible]馬子乃市家朝臣伊[illegible]
[illegible]ら分給ひきる馬子かくそも
ぶつて戦ふ其陣はまもぶ宮殿の市供を
ぶよかりらりあり 拙を後よ思ひ
を敵乃方よ吉色を 木曽殿うち
給ひぬと よりて 聲をあげよと
今ら行ぞう朝臣へきと 思ひ宮て義
平ら 是そ家朝の意言と 鎧ふん
ぞり 大音あげ 木曽殿の市内よ
今ら井乃四郎馬子とおのうへ ひきて
大勢よぶつくいきは 大ぶりで 鎬當
千乃 拙術を顕し 大扮を業ぶ乃 所
よ追つめく 嶽う 浪ぶぞりきり
蜘手十文字よ 折ぶひき通つて 其

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右之本者觀世太夫織部以章句
眞本令版行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町
旧 山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

板權所有

訂正者 東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達 觀世清廉

發行者 京都市上京區二条通御幸町西入番
印刷者 檜常之助